静商同窓会関東支部会報

発行人
静岡県立静岡商業高等学校
同窓会　関東支部
（静商同窓会関東支部）
〒105-0014
東京都港区2丁目31-19
BZビル1F
TEL 03(5443)9230
FAX 03(5443)9231

編集
関東支部広報部会
平成17年5月28日発行
（毎年1回・5月発行）
題字　湯本克巳氏
第14号

平成十六年度　総会・懇親会

ことしも元気いっぱい！

ことしも、170余名のいっぱいの参加者を得て、平成十六年度（第十四回）関東支部の総会＆懇親会が、平成十六年七月十日(土)に日本橋茅場町の鉄鋼会館「レストラン・コックドール」で開催されました。

来賓に、本部同窓会の桜井会長、澤田副会長、岡本組織部長、母校の齋藤照安校長、そして、恩師奥川金次先生をおむかえしました。

加えて、母校を卒業して関東の大学などに通学している若さいっぱいの女性7名の参加があり、会場は老若男女でいっぱいの盛会でした。

第1部の総会は、校歌斉唱、海野支部長あいさつ、来賓のご祝辞があり、平成十五年度会計報告および会計監査報告、平成16年度予算審議など議事も原案通り承認され無事終了しました。

そのあと、年代別にABCの3組に分かれ記念写真を撮影して、第2部懇親会に入りました。

ことしのキャッチフレーズは

「ふるさと静岡気分いっぱい」

会場いっぱいの白龍健児は、いつもの「静岡の味」黒はんぺん・しらす・桜えび・わさび漬けを腹いっぱい食べました。地元から直送の「静岡の地酒」が、机にずらりといっぱい並びました。当日記念品として全員に配られた「SCグラス」で、静岡の地酒を一寸いっぱい、いや、いっぱい呑みました。合間に「静岡民謡・ちゃっきり節のエピソード」など講演を聞きました。

また、応援部会・広報部会・カラオケ同好会＆歩く会・ゴルフ同好会の活動報告や資料、ホームページの紹介や資料が会場のまわりのボードいっぱいに張り巡らされました。

齋藤校長が持参された「商業教育120周年・静商創立105周年記念特集の静岡新聞」号外として配られました。

応援部会による発表されたばかりの夏の高校野球大会県予選の組み合せ表や下馬評などホット情報が張り出されました。

まさにふるさと静岡の味や唄と話題がいっぱいの懇親会となりました。

当日は、太陽がいっぱいの暑い日でしたが、時間いっぱいまで、力いっぱい歌い、語り、皆さんは満面いっぱいの笑みを浮かべ、元気いっぱいに愉しみました。

ことし当番幹事の昭和46年卒・昭和36年卒の皆さん、盛りだくさんいっぱいの企画・運営をご苦労様でした。

ふるさと静岡気分いっぱい

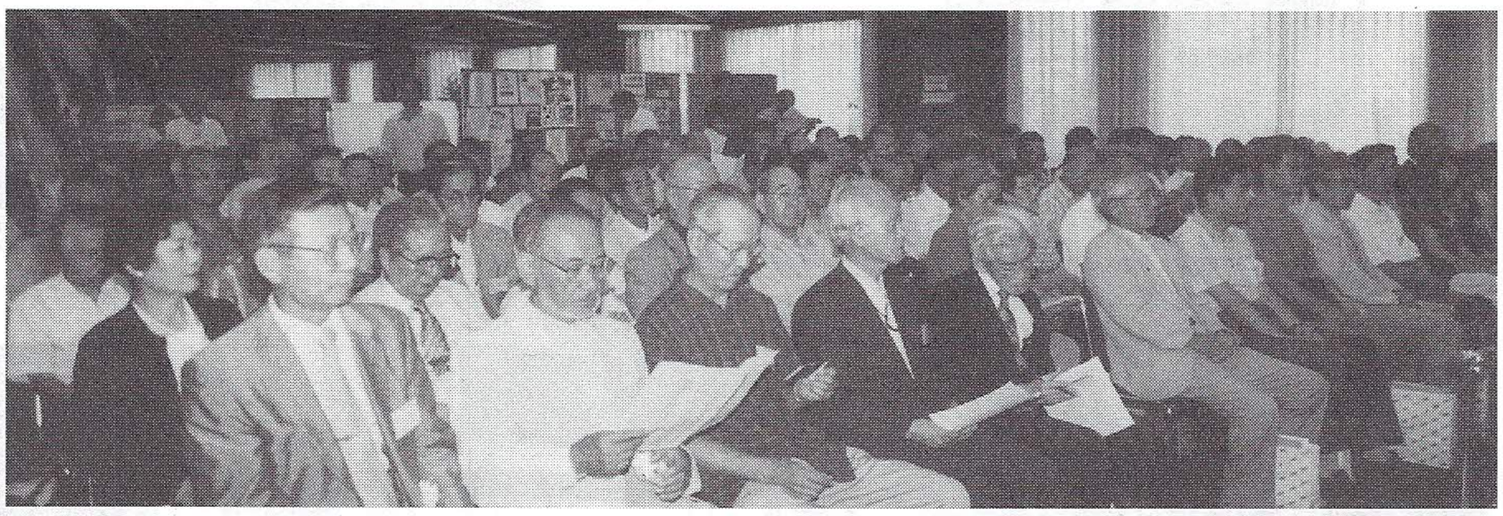
静岡気分

ふるさとの唄・味・酒がいっぱい
いっぱい歌い・食べ・呑み・語り

平成17年度総会・懇親会
開催場所が変わります

全員が着席　7／9（土）　全員に記念品

東京プリンスホテル前庭
ガーデンアイランド
東京都港区芝公園
詳しくは 9ページをご覧下さい



会場がいっぱい　ふるさとの味がいっぱい

総会と懇親会が同じフロアーで、総会のとき着席できない方もあったようだ。

懇親会も丸テーブルが小さく料理やグラスが置けない、立食だとお疲れになるなどご不満も多かった。

９月の幹事会で会場の見直しをはかる提案があり、３か所の候補地を比較検討し、今年は東京プリンスホテルのガーデンアイランドになりました。

いつもの、黒はんぺん、桜えび、しらすを静岡から直送して、鉄鋼会館で調理し、盛り付けていただきました。いつもあっという間に平らげてしまいます。お土産販売のわさび漬けも、あっという間に売切れてしまいました。ふるさとの味に舌鼓を打つのが、同窓会出席の目的のひとつになっているようです。ふるさとの味は毎回好評のようです。

お酒をいっぱい

ふるさとの味は酒の肴としても最高だが、今年は肴だけでなく、酒もふるさとの地酒を出そうと、静岡地酒12銘柄、さらに醸造元にお願いして静商ラベルの酒も用意されました。お気に入りの地酒は？

また、わが同窓生の山田雅子さん（S29年卒）が揮毫された宇都宮の日本酒と焼酎もラインナップされ花を添えました。

舞台ではテーブルごとに代表者が出場して、利き酒大会が催されました。栄冠はどなたに？

Ａグループ　昭和４年卒 ～ 昭和３１年卒

Ｂグループ　昭和３２年卒 ～ 昭和３６年卒

Ｃグループ　昭和３７年卒 ～ 平成１６年卒

ことしも母校から齋藤照安校長、本部から桜井会長、澤田副会長、岡本組織部長、そして恩師・奥川金次先生が来賓として同席いただきました。

初参加の皆さん

＊若さもいっぱい、お腹もいっぱいの笑顔＊

茶っきり節は静岡鉄道のCMソング

民謡資料収集家 頼久達郎氏が講演

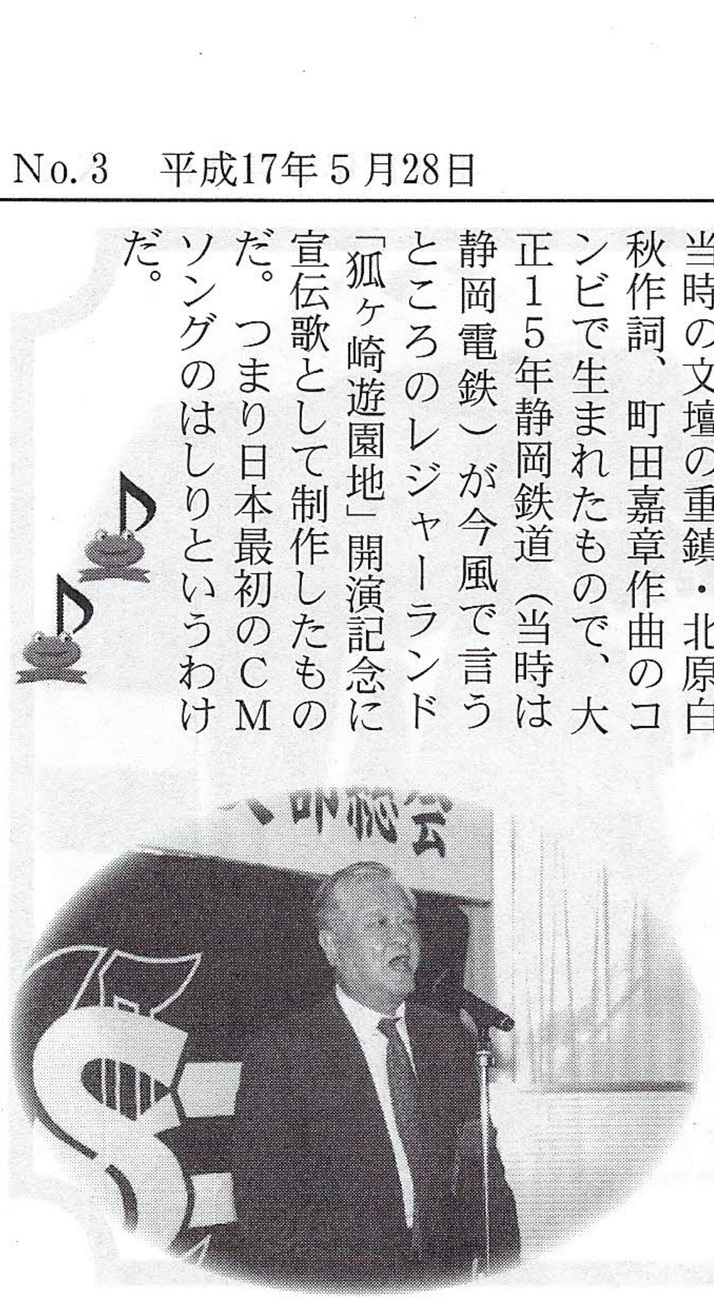
わがふるさと静岡の民謡といえば、「茶っきり節」だ。

日本民謡資料収集家である頼久達郎氏に「民謡あれこれ」と題して、特に「茶っきり節」について講演していただいた。

氏は調べた民謡8千曲、5千冊の文献・資料、2千本のテープ、1千点の写真を自宅に所蔵するほどの、日本一の民謡資料収集家である。この講演に先立ち、自ら静岡に赴き、今はない狐ケ崎遊園地跡地の資料館や日本平にある歌碑などを見学、事前調査をして講演していただいた。

講演要旨

「茶っきり節」は昭和2年、当時の文壇の重鎮・北原白秋作詞、町田嘉章作曲のコンビで生まれたもので、大正15年静岡鉄道（当時は静岡電鉄）が今風で言うところのレジャーランド「狐ケ崎遊園地」開演記念に宣伝歌として制作したものだ。つまり日本最初のCMソングのはしりというわけだ。



北原白秋は、静岡にやってきて旅館を根城に、料亭を飲み歩いたり、あらゆる層の人々と接し、静岡の人情、風俗、方言を吸収したのち作詞したそうだ。

できあがったものは、なんと30番まで歌詞がある。この唄の最も泣かせるフレーズ「・・・きゃあるがなくんて　雨ずらよ」は、静岡の芸妓が窓を開け、ふとつぶやいた時の言葉が閃いたもの。白秋の原稿では「きゃあるがなくから・・」となっていたが、静岡の人に「静岡ではなくんて・・」と教えられ、あとで直したそうだ。静岡出身のわれわれが、知っているつもりのこの唄にも、意外と知らないことが多いのに驚いた。

笑顔がいっぱい

懇親会場に並べられた15のテーブルには、同期の仲間・同じクラブ同士、同じ中学校・世代を超えて先輩・後輩、おなじみの顔・久しぶりの再会など、さまざまな出会いを求めて集いました。

関東支部創設十五周年に寄せて

奥川　金次　先生

人間到るところに青山あり

昨年七月十日、関東支部総会にお招きをいただきました。百七十余名の同窓生が鉄鋼会館に集い、会は盛大に催されました。同窓の皆さんが単なる懐古の情のみによってだけでなく、第二の故郷である関東の地において「今」と「これから」を逞しく、しかもしなやかに、生き抜こうとする気持ちが満ち溢れての積極的な参加であるさまを、目の当たりに見、感じとり心底からエールを送りたいと思いました。「人間到るところ青山あり」と釈月性（しゃくげつしょう）の絶句を口ずさみたくなりました。

今を拓（ひら）く

私は喜寿を迎える齢（よわい）になりました。突然回復不能の病魔に、あるいは避けることのできない転変地変に襲われない限り、あと十年は大丈夫だと信じております。刹那主義ではなく「今」という時間を精一杯生きているつもりです。現在という時間こそ己にとっての一切の時間だと考えています。

人は永遠に流れ止まらぬ時の流れの一点にある存在です。さらに広大無辺の大宇宙（５００億の銀河あり）の中の小さな光も発しない惑星の一点に立つ存在です。そして、人間を含むすべての存在は不断に変化しています。しかも、その変化は無限に展開されていくのです。

過去への懐古も未来展望も大切なことですが、現在という時間こそ己にとっての一切の時間だと認識しております。

「幸福とはリフレッシュなり」と信じ、体と脳のリフレッシュにつとめ、さらには「知的怠慢は許されぬ時代」に思いをいたし、命の続くかぎり学ぶことを続けたいと思い、その実践に日々努めております。「インドIT革命の驚異」「ハッブル望遠鏡から見た宇宙」「荘子」「中国の歴史（上中下）」「男の仕事は外見力で決まる」など面白く読んでいます。

静商同窓生の皆さまのご多幸を祈る

私は静岡県下の県立高校を６校勤務させていただきました。最も長く勤め、最も懐かしく印象の強かったのも静商です。敬愛の情を持って、いまだに私に接して下さっている方々の多いのも静商です。私の孫２人も静商に進学しました。

皆さんどうぞ「今」を精一杯生きてください。関東の地において、それぞれご自分の「今を拓く」姿勢を貫いてご活躍ください。

海野支部長をはじめ同窓生の皆々様のご多幸を祈念いたします。

六然（りくぜん）　明　陸湘客

自分にとらわれず脱けきる　**自処超然**

人にはいつも　和やかに　**処人超然**

事あらば　活気に満ち　**有事斬然**

無事なれば　心澄み　**無事超然**

得意なときは　あっさりと　**得意澹然**

失意のときも　落ち着いて　**失意泰然**

静商校歌は５番まで？

静商校歌が５番まであったことをご存知ですか？

④　時去り時は旋（めぐ）りきて
璞（はく）玉光身に添えば
我商神（ヘルメス）の翼かり
翔（かけ）る坤輿（こんよ）の市座に
ＳＣの旗翻し
四海の富を集めなむ

⑤　あゝ神州の益良雄や
あゝ嶽南の健児等よ
天孫の使命畏（かしこみ）て
民族のため国のため
永劫（とわ）の光を仰ぎつ
万里の船かぢとらん

政令指定都市「静岡」新たな飛躍へ

市の面積では日本一
葵区・駿河区・清水区

14番目の政令指定都市
面積 1,374.05Km²
人口 71万人

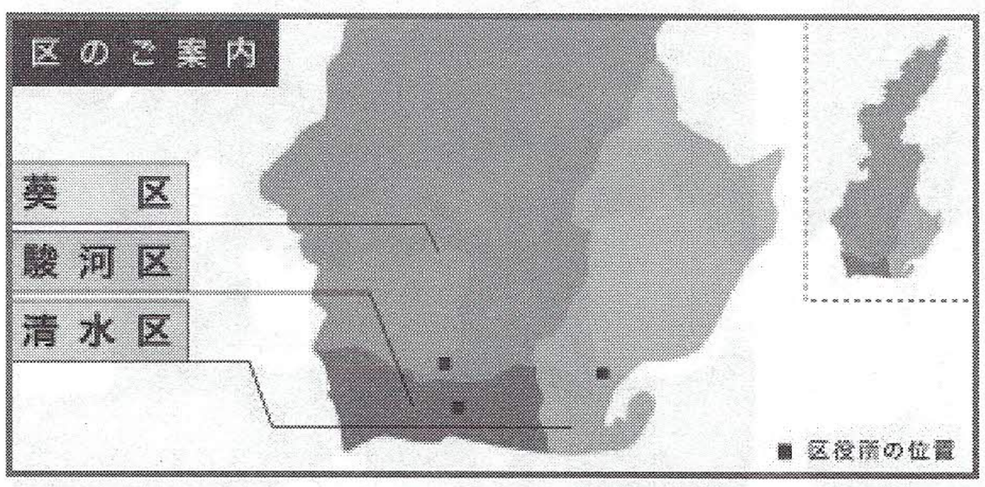
ふるさと静岡市は、平成15年４月１日、旧静岡市と旧清水市が大型合併しましたが、さらに、ことし平成17年４月１日、政令指定都市に移行しました。これにより区制となりました。

区名は葵区、駿河区、清水区（旧清水市区域）の３つです。なお、郵便番号の変更はありません。

住居表示は、静岡市〇〇区〇〇町のように変わります。

市域面積は、1,374.05km2で、国内市最大です。

総人口は、706,513人で、全国15位です。来年の３月31日には、蒲原町も静岡市に合併することが決まっているそうです。



名門 静商野球部の復活を！

昨年の夏の高校野球は、わが静商野球部があと一歩で甲子園出場のチャンスを逃した。同窓生の誰もが「名門復活」を願っているが、なかでも人一倍、その思いを噛みしめながら、静かに見守っている人がいる。同窓会関東支部事務局の場所をご提供していただいている、**エイプルジャパンの阿井勝利社長**（S32年卒）である。まさに同窓会のお膝元で、インタビューさせていただき、その熱い思いを、力強く語っていただきました。

第36回甲子園 夏の大会準優勝から50年

『この写真は？　そして、「祝　準優勝　1954」と書かれた垂れ幕を持って写っている面々は？』

第36回全国高等学校野球選手権大会で準優勝した当時（昭和29年）の硬式野球部メンバーで結成した「36会」の方々と静商野球部の現役選手です。「36会」は毎年1回程度静岡に集まります。

昨年（平成十六年）は、あれから50年ですから、何か記念になる会にしたいと思い、私が東京から、わざわざこの垂れ幕を持参しました。

第86回高校野球夏の県大会の前に激励をかねて母校を訪問しました。偶然、夏の大会を前に新聞社がナインの写真を撮影していたところに出くわしたので、この垂れ幕を前に現役選手と一緒に撮影してもらいました。図らずも良い記念写真になりました。

『そして「36会」の皆さんの激励の効果で、県大会は準優勝でしたね』

その効果かどうかわかりませんが、久しぶりの活躍で、激励した甲斐がありました。後日談ですが、持参した垂れ幕通りの「準優勝」だったので、「優勝」の垂れ幕にしていたら、もしかして・・・（笑）

第36回 全国高等学校野球選手権大会 準優勝 50周年記念　平成16年6月27日

写真・後列左から：柏原（S32年卒以下数字は卒年）阿井（32）加藤（31）村松（30）前田（30）横山（30）宮本（31）花村（30）川松（30）清水（31）松浦（31）　敬称略

甲子園に出場できなかった悔しさをバネに

『阿井社長は当時どんなご活躍を？』

私は甲子園出場の時、一年生でしたが、レギュラー組と同じ宿舎に泊まることができました。そこでは先輩の活躍を直接肌で感ずることができました。

その後、3年生では4番・サードと中心選手でした。チームは期待されたのですが、春の試合では予想外な敗戦を屈し、悔しい思いをしました。後援会やお世話になっている方々の期待を裏切り、どうにかしてこの挽回をしようと、夏の大会に向けて人一倍練習に精を出しました。練習は当時では珍しい「イメージトレーニング法」を取り入れました。

当時お世話になっていた寄宿先の庭で、エラーしないための構えや動き、球をミートした時の打撃フォームをイメージし、それをグラウンドで、実際に繰り返し練習しました。イメージが現実になるまで・・・練習中に「お前は4番打者だ」「エラーをしない三塁手だ」という天の声を聞いたような気がしました。

その努力の甲斐があって、県大会では順調に勝ち進み、準優勝、山静大会に出場しましたが、残念ながら甲子園出場はできませんでした。

でも、私は守備ではノーエラーで、三塁手として県のベストナインに選ばれ、打率部門でも後輩の細谷君に続いて2位になりました。

いまでも、甲子園出場は果たせませんでしたが、そのときの結果に自信と自負があります。

根気と体力で、夢の実現

『静商卒業後の活動は？そして今のお立場の原動力は？』

卒業後、兄のすすめもあり、当時ノンプロ野球の雄「日通浦和」に入りました。しばらくして、ノンプロ新チームを結成する「東芝」に、人にすすめられ移りました。サードから捕手にコンバートされ、強肩捕手として活躍しましたが、3年後、自慢の肩を壊し選手をあきらめ、職場復帰しました。

当時、東芝がコンピューター事業をはじめる時でした。私を含め4人で新事業を立ち上げました。商業高校出身で、スポーツ選手がどうしてできたかというと、「人間がつくったコンピューターだから、人間に扱えないわけはない」という「負けん気」が強かったのと、野球で鍛えた「根気」と「体力」でしょう。根気と体力で、プログラミングを独力でマスターしました。10年で人には負けない実力を備えました。コンピュータースクールの先生も経験したり、コンピューター事業に携わってきました。

ところが、東芝の大型コンピューター部門がNECの軍門にくだり、東芝での活躍の場がなくなりました。そんな時、人にすすめられて独立を決意しました。コンピュータースクールの生徒だった後輩も仲間に加わってくれて、今の会社を昭和55年に発足させました。

そして、こどものころの夢であった「社長になる」が実現できました。

いま、私がこの立場にあるのも、まわりの多くの方々のおかげです。毎年開催される「静商野球部OB会」「36会」そして「オール東芝グリーン会」にもできる限り出席しています。とりわけ静商野球部でお世話になったことが大きい。物心両面で、目に見える恩返しをしていきたい。それが静商の活躍や発展につながればうれしい。

『阿井社長のおかげで、同窓会関東支部の事務所や常任幹事会の場所を提供いただき感謝しています。また、本日はお忙しいところ、貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました』

旧東海道・丸子路散策と定期戦観戦ツアー

定期戦遂に５連敗

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
静商	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3
静高	0	0	0	0	4	0	0	1	×	5

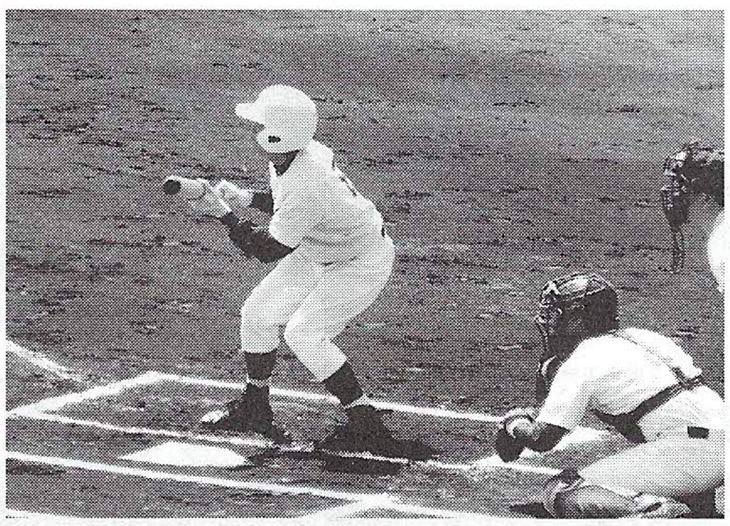
応援部会　長谷川　勉（Ｓ31年卒）

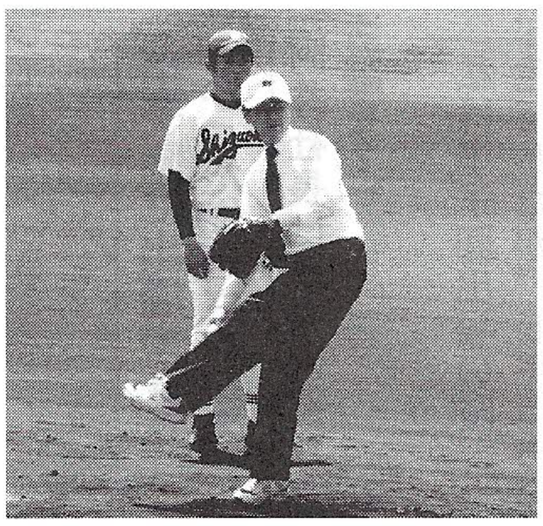
４月24日（日）に第47回定期戦が静岡草薙球場で３千人の観客を集めて行われた。５連敗阻止を応援の力でという意気込みで、関東支部幹事会の６名の方にお声を掛け新幹線で駆けつけた。参加者は29年卒の富田修一さん、31年の渡辺忠章さん、36年の鈴木晧介さんと平井幸雄さん、41年の松本豊さん、そして紅一点42年山口ひろみさんと私。それに静岡在住者で今回のツアーに車を提供し、道案内をしてくれた31年卒の加藤昭さんの計８名の応援団となった。熱血漢の渡辺忠章さんが作成してくれた打倒静高、快勝静商のプラカードが最初から掲げられ熱の入った応援を行った。試合結果は３対５の惜敗となったが内容のある好ゲームで応援のし甲斐があった。

バント、走塁、守備に手応え

徹底したバンド作戦と積極的な走塁が際立った静商の攻撃だった。11回バンドを試み、５回成功。内４回はバンドヒットになった。多くの野球を観戦しているがこのようにバンドの多い試合はあまり記憶が無い。走塁も見事だった。四球で出塁した１番バッター滝本君が二盗、三盗を決めた他、重盗も成功させるなど伝統の機動力野球が光った。

二年生エースの松山君も強打の静高相手に堂々と良く頑張ったと思う。静高は春季静岡大会中部地区予選の１位チームで県大会に出場、夏のシード権も獲得している強豪。５回に集中打で逆転されたが二死からの失点であり惜しまれる。松山投手は前日の関東遠征試合で、春の選抜大会で甲子園に出場した東京の修徳高校を５回無失点に抑え勝利の原動力となったが、連投の疲れが出たのかも知れない。



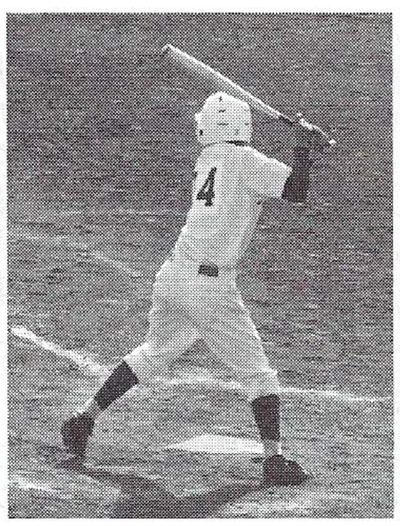


静商齋藤校長の始球式で試合開始

夏に向け収穫と見城監督

又この試合はノーエラーと堅守も光った。春季大会中部地区予選の３回戦敗退で県大会への出場権を失い、昨年に引き続いての夏の大会のシード権確保が出来なかったが、課題として指摘されたバンドの失敗や守備の乱れを解消出来たことでこの定期戦の試合内容を評価する声が多い。静高の畑田監督は新聞談話で「この時期、こういう緊張感のある試合が出来て良かった。静商さんにはいい勉強をさせてもらった」と述べている。私はスポーツライターの手束仁氏が全国一と評価するこの定期戦を一層盛り上げて行ってほしいと願う者の一人である。その為に今年で17勝30敗となった対戦成績の均衡化が必要なことは言うまでもないが、強い静商を持続させ、甲子園出場の30年の空白を一日も早く解消させることが一番の近道の筈である。私達ファンの熱心な声援が少なからず指導者や選手に伝わり、それが間接的に戦力アップに繋がるものと確信している。その意味でも静商応援団の懸命な応援を心強く感じた。静高応援団も統制の取れた素晴らしいもので好感が持てたが、人数で上回った母校の連勝と報告しておきたい。

暑いスタンドで熱い応援



【次ページへ続く】

静商硬式野球部　関東遠征スケジュール

日　時	対戦校	試合会場
５／29（日）10：00	横浜創学館高校 ダブルヘッダー	横浜市金沢区釜利谷５丁目 同校野球場　金沢自然公園近く 京浜急行　金沢文庫駅からバス利用
６／11（土）13：00	日大藤沢高校 シングル	藤沢市亀井野　同校野球場 小田急江ノ島線　六会日大前下車 徒歩７分
６／12（日）10：00	藤沢翔陵高校 ダブルヘッダー	横浜市戸塚区東俣野町２８４ 同校野球場 小田急江ノ島線　善行から車で10分
６／25（土）14：00	早稲田実業学校高等部 シングル	八王子市南大沢４－３－７ 王貞治記念グラウンド 京王・相模原線　南大沢駅下車徒歩15分
７／３（日）９：00	慶応義塾高校 鎌倉学園高校 変則ダブルヘッダー	横浜市港北区下田町２丁目 慶應義塾大学下田町グラウンド 東急東横線　日吉駅下車　バス利用

試合会場の詳細は関東支部のホームページを参照ください。
日程・会場の変更も関東支部のホームページで連絡します。
お問合せは長谷川まで（047-447-1822　or　090-7261-4816）

ありがとう

【第5回】

山田　雅子
（S29年卒）

齢（よわい）も古来稀なる頃になると不思議なご縁を来世からのメッセージと受け止めるようになるらしい。

昨年春、私の書いた宇都宮地酒のラベルが暮も押し詰まった頃、ふる里静岡の地で、酒の呑めない方の眼に触れて、にわかに騒がしくなった。

静岡市丸子大鈩（おおだたら）のお不動様の扁額揮毫の話である。話の主は、偶然にも静商27年卒の佐々木寛氏、在学当時は名トランペッターで名声を博していたと伺った。不幸にも私はその頃の先輩を知らず、今回が初対面だった。

氏の刻字は趣味の域を超えて、校歌の刻字、天満宮の額等々、多くの作品を刻されていて、この度の依頼もその彼の腕を見込んでの話である。

「恐れ多くてお引き受けできない」という私に、「我々の生命には限りがあるが、何百年も遺るものを静商OBで仕上げよう！」との一言で決まった。偶然ではない、必然のご縁のように思えた。

それから一ヶ月、お不動様と対峙する。何しろ、酒瓶のラベルが取り持つ縁である。この書体から大きく逸脱は出来ない「気」が先行して雑念から反故を重ねた。

この日、何かが抜けた。3枚目、決めた！と思った瞬間涙が溢れて止まらなかった。「ありがとう」という走り書きを添えて封をした。本当に未熟で技も、格も備わっていない。ただただ感謝の文字だったと思う。

三月二十八日、佐々木氏の精魂こめた刻字による、みどり鮮やかな「大鈩瀧不動明王」の七文字が丸子の地に掲額され、入魂式を終えた。

この日の立会人に27年、29年卒の同期生や31年卒の後輩なども同席してくださり、介添役の永田和尚もS27年卒で大きな慈悲の中に包まれている気がしていた。

右　佐々木寛さん（S27年卒）　左　山田雅子さん（S29年卒）

平成17年3月31日　静岡新聞に掲載された

ほこらに社名くっきり

大鈩滝不動尊に手作り掲額寄贈

静岡の佐々木さんら

静岡市丸子の大鈩滝（おおだたらたき）不動尊に二十八日、不動の名称を示した掲額（けいがく）が寄贈された。不動の安置以来、約八百年の間、ほこらに社名の表記がなく、参拝者への配慮を込め地域の住民が中心となって設置を進めてきた。

掲額作製を手掛けたのは、静岡市駿府町の佐々木寛さんと、栃木県在住の書家、山田雅子さん＝静岡市出身＝の二人。地域の活性化を目指す丸子路会から相談を受けた佐々木さんが、栃木の限定酒のラベルを書いた山田さんの筆跡にほれ込み、揮毫（きごう）を依頼。山田さんとは偶然、同じ静岡商高の卒業生だった縁で、話がまとまったという。

長さ百五十チセン、幅五十チセンのケヤキ板に、山田さんが「大鈩滝不動明王」の文字を勢いよく書き上げ、佐々木さんが手書きの感じを失わないよう注意しながら、四カ月かけ仕上げた。山田さんは「引き受けた時は恐縮しましたが、とてもきれいに仕上げてくれた」と満足げだった。

『書は、その時の自分を裏切らない』

次の書展は『縁』の一文字に決めた。心地いい、感謝の書でありたいと願っている。

山田さんが揮毫した
宇都宮の地酒のラベル

【前頁から続く】

新緑の丸子路で歴史と伝統工芸を再発見

大鈩滝不動尊の社名掲額の出来栄えに驚嘆

今回の日帰り旅行の動機付けは、静岡新聞に掲載された29年卒の書家山田雅子さんの揮毫による掲額をこの目で確かめることと、連敗中の定期戦を応援し関東支部の意気込みを示すことにあった。

初夏を思わせる好天のもと丸子路を散策した。最初に訪れた駿府匠宿で忘れかけていた静岡の伝統工芸品に再会した。漆器、蒔絵、竹細工、木製履物、指物などが展示されていて懐かしい思いを持った。体験工房などもあり時間に余裕を持って再訪してみたいと思った。

今回の目的地である大鈩不動尊を管理している誓願寺に立ち寄る。源頼朝の創建、武田信玄が再建したお寺で、豊臣家の家臣片桐且元の墓所としても名高い。山田雅子さんから事前に連絡を受けているということで丁重な接待を受け恐縮した。

尚、このお寺は天然記念物になっているモリアオガエルの棲息地としても知られている。渓流と滝の深い緑の中で淡い緑色の「大鈩滝不動大明王」の名称を示した掲額が映える。800年の歴史で初めて社名が表記されたとのことであり毎月28日の縁日に訪れる参拝者はさぞ驚くだろうと思うと感慨深い。

時間に追われながら、昼食を予約しておいた宇津ノ谷峠近くの蕎麦処「きしがみ」へ。こだわりの十割蕎麦と山菜てんぷらが自慢。開会式の始まる12時までに草薙球場へ行かなければならず忙しい思いをしたが、味は確かのようだ。評判の良い店で混み合うが機会があったら行って見ることをお勧めする。

ツアーの主役である筈の山田さんが書道連盟の会合で参加できなかったのが残念であったが、気心の知れた仲間と故郷で有意義な一日を楽しく過ごすことが出来た。解散後に静岡駅構内の居酒屋で静岡おでんに舌つづみ。勝っていれば最高と思いながら静岡を後にした。

第２回グルメの会

神代植物公園のバラ園と新撰組フェスタ観賞
深大寺蕎麦屋で落語「時そば」を聴く

松本　豊　（Ｓ 41 年卒）

平成16年10月16日に第２回グルメの会が開催された。当日は風のある肌寒い日となってしまったが参加の面々は皆元気に笑顔で集まってきた。年代差のある先輩、後輩が同級生のように親しく話ができるのも同窓生の有難さである。京王線つつじヶ丘に11時集合しバスで一路、深大寺に向かう。

深大寺参拝の前に、神代植物公園に入園し広い植物園を散策する。バラ園は丁度見頃で種々の名前を付けられたバラが競って咲いている。バラの香りの中でバラの名前を確認したり、記念写真を撮ったりで時間は過ぎてゆく。

また、園内はＮＨＫの大河ドラマで放映されている新撰組フェスタも開催されていてジオラマやからくり屋敷が設置され放映場面や歴史を確認しつつ見て廻る。

広い園内を歩き回りお腹も空いてきたところで植物園をあとにして深大寺に向かう。深大寺は７３３年創建の古寺で現在は天台宗の寺として人々の信仰を集め厄除け、商売繁盛縁結びにご利益があるとされている。草葺屋根の山門が印象的であった。境内を抜けると門前町が形成されていて数沢山の店と大勢の人々で賑わっていた。

目に着くのは蕎麦屋の多さである。参道を中心に蕎麦屋は20軒余あるそうである。深大寺蕎麦は江戸時代より食されているとのことであるがこれほど蕎麦が有名となったのは深大寺に湧き出る水によるものであると考えられる。武蔵野台地のヘリにあたり国分寺崖線に沿って位置する深大寺は昔から豊富な湧き水が多くこの水で打った蕎麦が美味で口コミにより深大寺蕎麦の名が冠され広まったものではないかと考えられる。

参道から脇に抜けグルメの会が催される深大寺水神苑に入る。現代的な料亭で庭に大きな池が配置され、立派なたたずまいである。ここで蕎麦懐石をいただくことになるがグルメはこれだけではなかったのである。Ｓ36年卒の平井幸雄先輩こと三遊亭圓塾さん演ずる落語「時そば」を聞きながら料理を楽しむといった贅沢も調味料に加えられていたのである。

関東支部第15回総会・懇親会を記念して

江戸玩具を創る

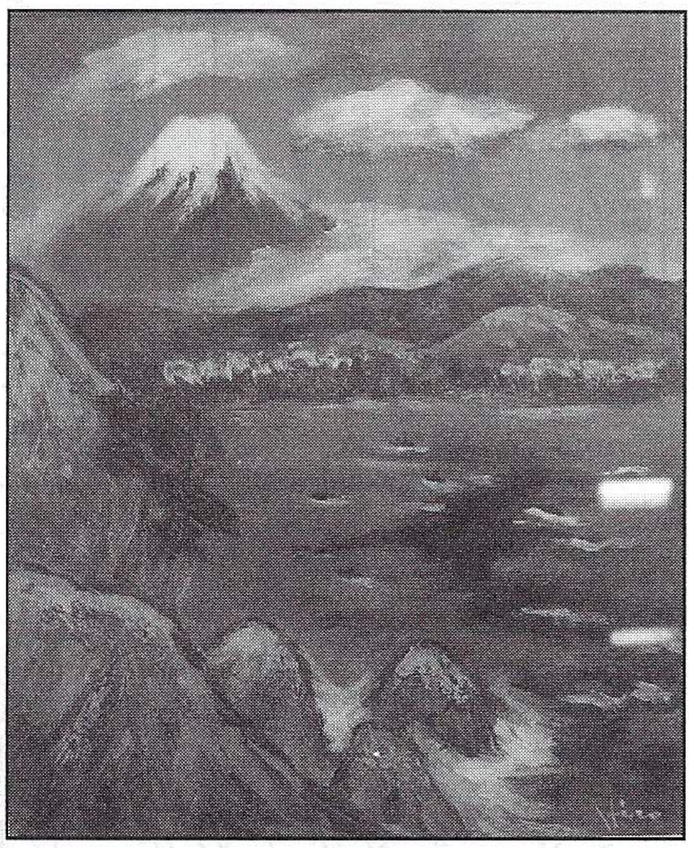
望月　健三郎（Ｓ27年卒）

ことしの総会は、15周年を迎える。しかも私たち年次が当番幹事です。その記念になるものを作ろうと考えました。ご出席の皆さんに思い出に残る、縁起物を作ろうと3年前から着手しました。

剛健進取の静商そして、関東支部のみなさんにふさわしいものと、浅草の仲見世で、縁起物を見てヒントにし、江戸火消しの「出初式セット」と、かわいらしい「ポックリ」をつくることに決めました。

約２年半、こつこつと愛情を込めて、一つひとつ手作りでしあげました。今年の総会出席者全員に差し上げられるよう何とか間に合わせることが出来ました。

ぜひ総会に来て、私の手作り縁起物「江戸玩具」をおみやげにしてください。



静商同窓会関西支部より寄贈の絵画

関西支部は平成 16 年 7 月に開催された総会で、10 周年記念に前支部長の上坂浩通氏（第 41 回 2 種卒）の絵画を複製して額入れで会員に配布しましたが、その一つを関東支部にもお贈りいただきました。

＜絵は美術年鑑の画集にあった「大崩峠と富士」をモチーフに、故郷と母校の思いを描いた＞ということです。

平成 17 年度　静商同窓会　関東支部

総会・懇親会のご案内 15回記念

◆日　時　平成十七年七月九日（土）
十二時スタート（十一時半から受付）

◆場　所　ガーデンアイランド
（東京プリンスホテルの前庭）

＊＊＊＊＊＊　第1部　総　会　＊＊＊＊＊＊

① 新役員選出
② 平成十六年度　会計報告と監査報告
③ 平成十七年度　予算審議

＊＊＊＊＊＊　第2部　懇親会　＊＊＊＊＊＊

① 豊かな緑と光につつまれ
魅惑のハワイアンとフラダンス
② 知ってるつもり静商のこと
静商　○×クイズ
③ フレー！フレー！静商
みんなで歌おう応援歌♪
④ いつもの　ふるさとの味がいっぱい
（黒はんぺん・桜えび・しらす・山葵漬け）

【恩師　松永 彰　先生来る！】

◆会　費

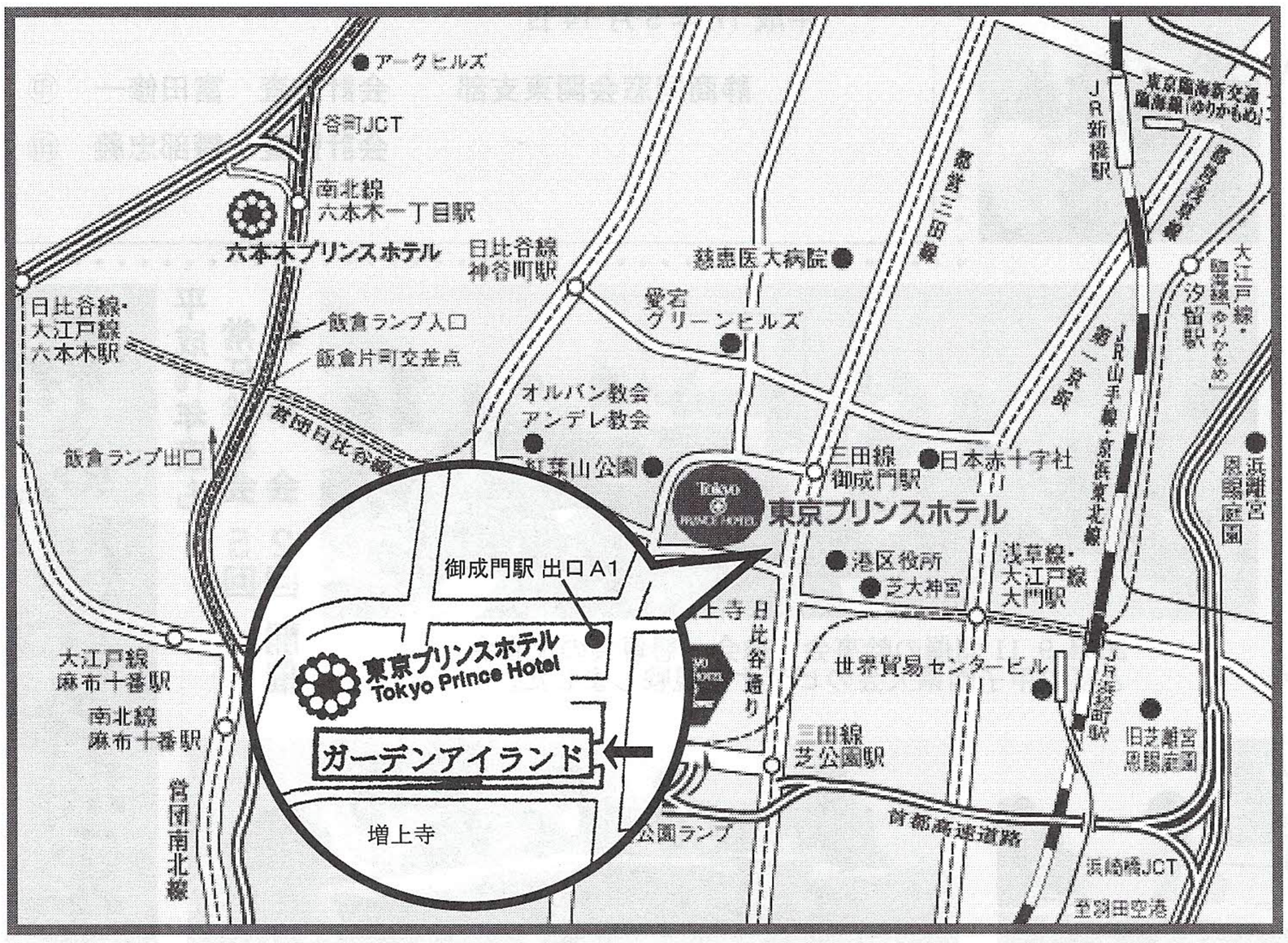
（年会費　＋　懇親会費）
女性　8千円　＝　2千円　＋　6千円
男性　1万円　＝　2千円　＋　8千円
卒業後4年目までの方は無料ご招待

※出欠のハガキ（同封）を6月30日（木）までに必ずご投函ください。残念ながら欠席の方は年会費2千円を同封の振替用紙にて納入ください。

東京プリンスホテル Garden Islands

ガーデンアイランド

東京都港区芝公園3－3－1
TEL（03）3432－1111



全員
着席できます
各テーブルに
郷土料理

お楽しみ！

総会・懇親会
の１５回を記念して
ご出席の皆様全員に
すばらしい記念品を
ご贈呈

7/9 土

受付　11：30～
開始　12：00～

ＪＲ線・東京モノレール	浜松町駅（北口）から徒歩	10分
都営地下鉄三田線	御成門駅（Ａ1）から徒歩	1分
都営地下鉄浅草線・大江戸線	大門駅（Ａ6）から徒歩	7分
都営地下鉄大江戸線	赤羽橋駅（赤羽橋口）から徒歩	7分
東京メトロ日比谷線	神谷町駅（３番）から徒歩	10分

日本赤十字を通じ 新潟中越地震 見舞義援金

常任幹事会で海野支部長から「いつ起きるか分からない東海沖地震を考えると、他人事でない」と発案があり、新潟中越地震に対して、支部の一般会計から１０万円の義援金を日本赤十字を通じておくることを決定した。

また、支部基金が、遂に五百万円に達しました。多くの皆さまのご協力に感謝します。

平成 16 年度　会　計　報　告

◆一般会計（平成 16 年 4 月 1 日より平成 17 年 3 月 31 日まで）

区分	項目		実算額
収入の部	前期繰越金		309,081
	本年度収入	本年度総会会費	1,274,000
		年会費	506,000
		寄付金	506,000
		会報広告収入	140,000
		物品販売益	7,880
		預金利息・貯金利子など	9,428
		小計	2,579,308
	合計		2,888,389
支出の部	本年度支出	本年度総会費用	1,248,210
		会報発行費	430,518
		専門部会費	119,063
		会議費	191,477
		運営諸経費	191,671
		義援金	100,000
		小計	2,280,939
	支部基金への組入れ		300,000
	次期繰越金		307,450
	合計		2,888,389

◆基金合計

項目	金額
支部基金	5,000,000

◆財産目録

項目	金額
銀行預金	307,450
郵便貯金	5,000,000
合計	5,307,450

上記の通りご報告申し上げます。

平成 17 年 5 月 14 日

静商同窓会関東支部　会　計　鈴木啓嗣　㊞

■平成 16 年度会計監査報告

監査の結果、上記の報告に相違なく、適正である事を認めます。

平成 17 年 5 月 14 日

静商同窓会関東支部　会計監査　富田修一　㊞

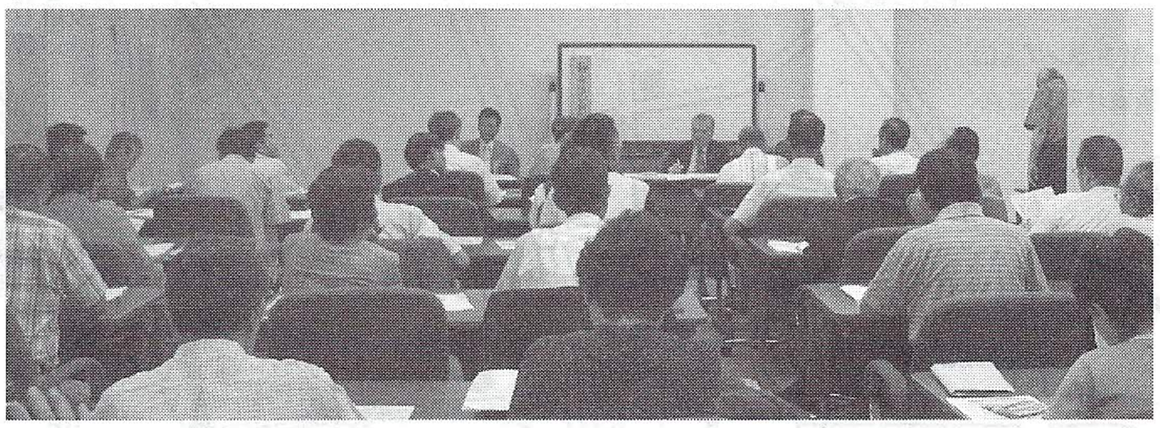
会計監査　織部忠義　㊞

新入会員

ことし２月 28 日に母校の卒業式があり、同時に**277名**の同窓会入会式がありました。
そのうち、関東地区への居住予定者は**６２名**。

男性２９名、女性３３名
進学５９名、就職　３名

早速、関東支部組織部会からもお手紙を差し上げました。
何人かから「よろしく願いいたします」との返信がありました。



2004. 9. 11 開催の幹事会　総会・懇親会の反省会と夏の甲子園県大会のビデオを観戦しました。

平成16年度も 常任幹事会５回 幹事会２回 開催

2005. 3. 12 開催の拡大常任幹事会の模様
平成 17 年度総会・懇親会の内容が討議されました。

ホノルルマラソンを完走

増田　数茂（S37年卒）

２００４年12月12日、この日は私にとって特別な日となった。永年の夢であったホノルルマラソンに出場した日だ。

平成十三年当時、定年を2年後に控えて、永年の運動不足を補うためにジョギング、水泳をやり始めた。やるからには、ホノルルマラソンに挑戦しようと決意した。４２．１９５kmを自分の力で走ることは生半可なことではない。ましてや、何十年も運動をしていない、年齢も60歳を超えてからだ。ホノルルマラソンの40km地点は長い上り坂のダイアモンドヘッドの海岸線をかけ上るのだから、体力と精神力が試される。

そんなことを考えながらトレーニングをこなし、実際のレースにも出て感触をつかもうと、地元の三浦国際マラソン10km、シーサイドマラソン20kmに出た。両方ともなんと長く、厳しい道のりだということを実感した。どちらも中間点で苦しくなったが「ここからが本当の出発点だ。皆も同じように厳しい闘いに挑んでいる。ここからが本当のガンバリだ」と思えるようになれた。大変良い体験・勉強になり、本場に備えることができた。

さて、本番の前日にホノルルに着いた私は、早速コースを試走した。とにかくそのコースの美しさに感動、ゆるやかな美しいカーブを描く海岸線、エメラルドグリーンの海、海岸には赤・黄・白の色とりどりのブーゲンベリアが咲き乱れ、海岸線に沿って建ち並ぶ瀟洒な建物に、クリスマスデコレーションのように花を添える。そんな楽しみを噛みしめながら試走する。ダイアモンドヘッドに着くと、夕日が沈むころとなり、明日のレースに思いをはせる。

いよいよ本番、午前5時、ゲストスターターの野口みずきさんの号砲一発でスタートした。無心でただ走るのみだ。まだ暗いワイキキの海岸を自分のペースで黙々と走る。沿道は応援の人でいっぱいだ。とても励みになる。往路のダイアモンドヘッドを越えたあたりで、白々と明けてくる。

とにかく走る。20kmを越えたころになると、同じ集団の中に、暗黙のうちにお互いのライバル意識がめばえ、抜きつ抜かれつ、張り合って走る相手が現れる。

30kmを超えたところで、いままで感じたことのない痛みが、足の全体に感じが、もうこうなったら気力だ。足は何とか動く。トレーニングのおかげだ。35kmを超えたところで、時計を見ると3時間だ。自分でもびっくりした。残り7kmを1時間弱で走れば、3時間台で完走できる。ラッキーと思った瞬間、左足に痙攣が起こり急ブレーキ、でも止まったらだめだと自分に言い聞かせながら、5kmくらい左足を引きずりながら走る。なかなかおらない。

やむをえず止まり、ストレッチを十分におこなって恐る恐る走り出した。そこには最後の難関である長い上り坂のダイアモンドヘッドが待ち構えている。幸運にも左足は動いてくれた。最後の力をふりしぼり、一気に走り抜けてゴールへ。

ゴールには大観衆の祝福の拍手と歓声の嵐が吹き荒れてものすごいパワーがそこにあった。ゴールの瞬間、今までに感じたことのない感動がこみ上げてきた。厳しい長い道のりを、ただひたすらに走り、自分との闘いに勝った者だけが味わえる感動がそこにあった。

「俺はやったぞ！」

「4時間1分11秒」

ＳＣ関東３８会　伊豆長岡の旅

吉田　茂夫（S 38年卒）

「クスクスクスクスおじいちゃん遊ぼう、クスクスクスおばあちゃん遊んで！」可愛い座敷わらしに会ったことあります？

私たち同期会の旅の宿「伊豆長岡の山田屋」は、恐らく１００年以上前からやっている旅館です。造りは古いけど、歴史を感じさせます。座敷わらしが廊下を曲がったところや障子の陰にいて、人なつっこく笑いながら、遊んでいるような気がしました。

さて、例年なら秋に出かけるのですが、今年は年越しの1月28～29日（金・土）に関東会と静岡組が一緒に集まりました。総勢28名、名幹事はいつもの鈴木一晴と梶山恭一コンビです。新たに参加したメンバーもあり、予想通りの大変な盛り上がりでした。校歌、応援歌はもとより、静商小唄も歌い、飲むは呑むわ、なぜかビールはキリンばっかり、嬉しいね！みんな元気で、六十歳よ、ヤッホー！いろんな人生を歩んできた仲間に会えて、本当に嬉しい。

静商同窓会本部第一回ゴルフコンペ
関東支部の知光さんが堂々の優勝

宗野　治義（S32年卒）

昨年は、例年になく災害が多くあり、その影響をもろに受け十月二十日に開催予定が前日夜に急遽中止になってしまいました。実際のプレーは十一月十六日に無事開催されました。この大会は、静商同窓会の本部主催の第一回目の記念すべき大会でした。

関東支部からは、知光会長のご案内で、都合のついた同好会メンバーが二組参加しました。

場所は、関東支部の会員が参加するのには、少し遠い、山梨県の隋縁カントリークラブ（センチュリー富士コース）となりました。

当日は晴天に恵まれ、富士川沿いを車で走りながら、雲ひとつ無い富士山の側面に朝日が赤々と射す光景を堪能いたしました。静商への通学路から見た富士山は、右肩の宝永山の盛り上がり部分を特長としており、小学生の頃の写生では常にこの形を画用紙に描いていました。しかし、この富士川沿いから見た富士の山は今までと違った角度からの情景となり非常に印象深いものでした。

大会参加者は、総勢六十六名（関東支部からは八名）でした。

大会は八時からアウトイン同時にスタートし、関東支部のメンバーは約一時間後のスタートとなりました。

私は、上山富義（S28年卒）先輩、同期の織部忠義さん、堤正義さんと同じ組で回りました。この四人は全員名前に「義」の字が付いており、知光先輩からは「仲良し《義ちゃん》組」と言われました。ひとつ前の組は関東支部の昭和二十七の望月健三郎（S27年卒）さん、知光敬矩（S28年卒）さん、田辺勉（S40年卒）さん、それに静岡から参加の石田時久（S28年卒）さんでした。もう一名の井上孝信（S31年卒）さんは静岡の同期のメンバーと組んで回りました。

結果は知光さんが、ベスグロ賞と同スコアの78（ネット72）で堂々の優勝でした。他には、田辺さんが七位、堤さんが十位と健闘されました。私はブービー賞でした。

今大会には、静商野球部のOBが十五名程エントリーしており、藤波行雄さん（元中日）新浦寿夫さん（元巨人）池谷公二郎さん（元広島）などプロ野球で大活躍の方々も和気藹々とプレーを楽しんでいました。

優勝者の知光さんには持回りの会長盃の他にトロフィと米十キロが授与されました。私はお陰さまで米五キロを頂きました。

関東支部と本部との交流をこのような形で行うことも同窓会の組織活性化のひとつと考えられますので、次回も関東支部から多数の参加者が出ることを期待して参加報告とさせていただきます。

梅雨空を吹き飛ばそう
千代田カントリークラブ

梶山　恭一（S 38年卒）

昨年の梅雨は空梅雨でしたが、ゴルフ同好会の平成十六年度第二回コンペは、会員の皆さんの行いが良いのか、すばらしいゴルフ日和でした。平成十六年六月九日（水）茨城県石岡市の郊外にある「千代田カントリークラブ」で開催されました。このクラブはバブル時代に、企業の接待ゴルフ場として大変盛況であったところです。今回は知光会長のおかげで安くプレーができ、参加者にも好評でした。私の組は若手（？）グループで、恩師の田邊先生のご子息の田邊さん、中畑さん、塩沢さんと四人で楽しくラウンドできました。田邊さんは現在、会員制レストランチェーンの社長をされているとのことで、この日も賞品に「食事券」を提供していただきました。

さて、成績の方はといいますと、実力どおりの結果でしたが、一位から七位までがアンダーパーからイーブンパーという、高レベルの戦いとなりました。特筆すべきは、準優勝された磯部先輩の奥様の実力に、皆が脱帽しました。ご夫婦でいつまでも仲良くプレーできることは、うらやましい限りです。

表彰式で私は、山元先輩提供の女性用パンツ（モンペ風）をいただき、帰宅して女房に喜ばれました。参加者がやや少なかったのですが、斉藤まり子さんが参加してくれています。女性の参加は大歓迎、ご夫婦や親子での参加も結構です。女性と若手の参加を切望します。なにはともあれ、楽しくパーティーも終え、次回のお互いの健闘を誓って散会しました。

成績表　2004.6.9
千代田カントリークラブ

	氏　名	アウト	イン	グロス	ハンデ	ネット
優勝	知光　敬矩	41	35	76	9	67
準優勝	磯部　晶子	49	43	92	25	67
3	田邊　勉	43	43	86	18	68
4	小長井武夫	47	46	93	24	69
5	高山　康明	44	42	86	14	72
6	磯部　信雄	49	45	94	22	72
7	曽我　和善	49	50	99	27	72
8	織部　忠義	48	41	89	16	73
9	紅林　勲	49	51	100	26	74
10	梶山　恭一	45	45	90	15	75
11	高山　房之	44	45	89	12	77
12	山本　欽次	51	44	95	18	77
13	中畑　稔	48	50	98	18	80
14	塩沢　金夫	52	43	95	13	82
BB	望月　昌房	65	51	116	32	84
BM	斎藤まり子	69	59	128	40	88

第２６回定例コンペ
那須小川ゴルフクラブ

井上　孝信
（Ｓ31年卒）

猛暑、台風上陸と例年になく気候の異常現象で心配しての開催でしたが、結果はベリーグッドでした。

まず恒例の前夜祭は、9名が、温泉入浴後、近くの中華料理店に集合しました。この店は、私にとって懐かしい思い出の店です。2年前の亡き甲田大先輩とのひとときが忘れられない。当時、企業戦士から年金生活者へと第三の人生に転じて一年、環境変化に戸惑い、精神的にも難渋して、落ち着きのない状態でした。そんな時、隣に同席した先輩のアドバイス、そして次の日の元気なプレーに、私は元気づけられました。昨年は都合で私も欠席だったので、それが最後となりました。

再会できない悔しさが残っていましたが、いつもながらの楽しい会話、おいしい料理で、初秋の一夜は盛り上がりました。

次の日は、ゴルフ日和になり、22名の参加者は、イン・アウトに3組ずつに分かれてスタートしました。私はアウト2組で磯部さん（Ｓ27年卒）知光さん・上山さん（共にＳ28年卒）の先輩とご一緒でした。好プレー、珍プレーを美しいトーナメントコースで繰り広げました。

表彰式では、当ゴルフ場の「豊年満作コンペ」にも加わって、全員が米、野菜、フルーツをいただき、帰りの荷物は大きく膨らんでしまいました。来年は参加賞だけでなく、入賞の栄に与ろうと決意しました。

楽しいゴルフは、これで終わらないのです。帰りの電車の中でも十一名が乗り合わせ、缶ビール、つまみで楽しい時間を過しました。あまりの楽しさに、途中で大宮の孫の顔を見ていくつもりが、いつの間にか上野に近づいていました。仕方なくそのまま、東海道線に乗り換え、熱海の自宅に帰りついたのは十一時の深夜でした。

今回、海野支部長と知光同好会長からご寄付をいただきました。ありがとうございました。

第26回　成績表　2004.9.24
那須小川ゴルフクラブ

	氏　名	アウト	イン	グロス	ハンデ	ネット
優勝	大森　泰次	50	49	99	32	67
準優勝	杉山　光男	50	44	94	25	69
3	曽我　和善	49	49	98	27	71
4	村上　恵作	50	49	99	28	71
5	宗野　治義	58	49	107	36	71
6	高山　房之	41	44	85	12	73
7	高山　康明	42	45	87	14	73
8	堤　正義	48	40	88	15	73
9	大村　隆明	55	53	108	34	74
10	戸井　政広	47	44	91	16	75
11	知光　敬矩	42	38	80	3	77
12	井上　孝信	56	55	111	33	78
13	田邊　勉	45	48	93	13	80
14	織部　忠義	52	44	96	16	80
15	磯部　晶子	49	49	98	18	80
16	岡村　克己	58	56	114	33	81
17	上山　冨男	55	50	105	22	83
18	小長井武夫	56	52	108	24	84
19	斎藤まり子	65	59	124	40	84
20	磯部　信雄	62	49	111	22	89
BB	豊岡　弘子	63	66	129	40	89
BM	望月　昌房	67	59	126	32	94

第27回春の定例コンペ
桜花を楽しみながら ゴルフをやろう

小長井　武夫（Ｓ34年卒）

同好会春季コンペは、磯部信夫先輩のご尽力により栃木市にある大平台カントリークラブで開催しました。「桜花を楽しみながらゴルフをやろう」と計画したものの花は大丈夫だろうか。幸い2日前の初夏のような陽気が、その後冷えこみ、われわれが行くのを待っていてくれました。桜花はまさに満開ということになりました。

さて、肝心のゴルフは十九名の参加で、クラブ主催のハーフコンペにも参加して、同好会とのダブルコンペで、賞品も盛りだくさんの賑やかな、楽しいコンペとなりました。

スタートホールは豪快なうち降ろし、全員がチョロやミスショットもなくスタートしました。今回は、久しぶりにダブルペリア方式により実施しました。常勝組（ハイ・ハンデキャップの方）のスコアが伸びず、優勝のゆくえが混沌という状況でしたが、終わってみればいつもの実力通りの結果でした。ハーフですが、30台が2名もいたという、ハイレベルの展開でした。

優勝は初参加の新鋭小林さん（Ｓ42年卒）でした。今後も優勝争いの台風の目になりそうです。2位3位の争いも激戦で、同グロス・同ネットと相譲らず、年齢が上の知光さんが若手の塩沢さんを押さえベスグロ賞・準優勝となりました。

一方、この会でも優勝経験のある大森さんは、のびのびとゴルフをしながら「花見に一杯」を楽しんでいました。私は久々のブービー賞でした。今回は、若手の台頭と磯部ご夫婦が同一ハンデ、グロスもネットも1スコア差で仲良く順位を並べて夫婦仲の良さを見せつけました。反面、中堅どころのＳ34年組が下位を独占したことでした。でも、いつもの和気あいあいと語り合う楽しいコンペでした。

第27回　成績表　2005.4.12
大平台カントリークラブ　（新ペリア）

	氏　名	東	西	グロス	ハンデ	ネット
優勝	小林　幸雄	49	38	87	16.8	70.2
準優勝	知光　敬矩	47	39	86	10.8	75.2
3	塩沢　金夫	46	40	86	10.8	75.2
4	戸井　政広	47	48	95	19.2	75.8
5	高山　房之	51	44	95	19.2	75.8
6	井上　孝信	53	54	107	31.2	75.8
7	織部　忠義	44	49	93	16.8	76.2
8	高山　康明	44	48	92	15.6	76.4
9	田邊　勉	49	46	95	16.8	78.2
10	上山　冨義	53	52	105	26.4	78.6
11	大森　泰次	51	50	101	21.6	79.4
12	堤　正義	51	47	98	18.0	80.0
13	杉山　光男	49	49	98	18.0	80.0
14	磯部　晶子	54	49	103	22.8	80.2
15	磯部　信雄	52	52	104	22.8	81.2
16	村上　恵作	56	56	112	28.8	83.2
17	大村　隆明	62	53	115	31.2	83.8
BB	小長井武夫	55	51	106	21.6	84.4
BM	岡村　克己	59	56	115	26.4	88.6

世界の窓　歴史の窓

同窓会という枠を超え、いつもと「同じ窓」ではない、
広く世界、遠く歴史の「違う窓」も覗いてみたい。
広報部会のトリオが、かき集めた記事を載せてみました。
広い視野、新しい視界、もうひとつの視点
を見つける一助になれば・・・・・

同窓

指桑罵槐（しそうばかい）

参議院第一特別調査室
首席調査員
高塚　年明
（S42年卒）

中国の主要都市で反日運動が吹き荒れた。我が国の北京大使館、上海総領事館への激しい投石、日本料理店の破壊などがあり、日本の国旗が焼かれるという行為があった。こうした対日批判の事件を見るたびに、岡田英弘著『この厄介な国、中国』を想起せざるを得ない。

同氏は中国の辛口批判で有名であるが、その主張の目的は中国を非難することではない。中国に対する誤ったイメージを持つ我々日本人に対し警鐘を鳴らしているのである。

「日本人の中には、中国に対する抜きがたい幻想が居座っている。それは、日本人と中国人は古くからの隣人であるという幻想であり、日中は理解し合えるといった間違った思いこみである。

日本人は同文同種の民族として漢文を読むことで、中国を知ったつもりになってきた。それは極めて危険なことであり、日本人が中国及び中国人を理解することに失敗してきた最大の原因である。中国人には、中国人独自の行動原理がある。そして、それらは日本人と極端に離れている。

（中略）

この幻想から自由にならない限り、日本人はこれから先も中国人と付き合っていくことは永遠にできないであろう。これは、歴史学者としての私の実感である。」

中国人の行動原理　指桑罵槐

中国に「指桑罵槐（桑を指して槐を罵る）」という諺がある。その意味するところは「本当の怒りの対象とは全く別なものを攻撃する」である。「歴史認識」「靖国」「教科書」問題には多分にその傾向があるといわれる。感謝と謝罪を挨拶代わりとする日本人は良いカモなのである。

なぜ？　指桑罵槐（しそうばかい）

それは端的に言って歴史の違いである。中国四千年の歴史は侵略・被侵略と内戦の歴史である。そして多民族国家である。中国の一般国民にとっては中国自体が世界なのであり、しかも人口が十三億人以上という激烈な生存競争の世界なのである。当然の事ながら、物事の考え方として、頼れるものはお金ということになる。

また、一般に中国人は「ありがとう」「ごめんなさい」を言わないと言われる。なぜであろうか。それは、感謝と謝罪は自分の地位を低めると考えるからである。彼らにとっては、自分の周辺との関係は常に闘争なのである。それ故、相手を批判する場合、徹底的に批判するが、同時に直接その相手を批判することは避け、その周辺を攻撃するという習慣も持っている。なぜであろうか。それは、批判した相手がいつ復権するか分からないからである。失脚した人間が、突然復権し、自分の上司に付くことも十分あり得るからである。つまり、叩いても大丈夫という相手を叩くのである。欧米諸国が法治・実利の社会だとすれば、中国は人治・実利の世界である。その意味では、我々日本人から見れば、扱いは欧米人より難しいかも知れない。

明治の清水次郎長

NHKラジオ名作座の脚本家・井口勢津子さん（同窓生ではありません）に静岡に縁のある作品「次郎長開化事件簿」の一節から、この会報のためにご寄稿いただきました。

平井　幸雄（S36年卒）

文政3年に生まれた次郎長は、明治二十六年、七十五歳で死ぬまで故郷清水のためにも、色々と尽力している。

清水港の沖合いで咸臨丸に乗った幕府兵が官軍と戦い多数の死者が出たとき「官軍も幕府軍も死ねば皆仏だ」と手厚く葬ったのを見て、政府高官の山岡鉄舟が感心し後盾になった。

次郎長は新しいものに目を向ける人でもあった。これからは海外と付き合うのだからと、自費で英語塾を作ったが外人の先生の給料が高くて半年で閉めてしまったこともある。

また、静岡から清水までの鉄道馬車を通そうと計画したが、これもうまくいかなかった。

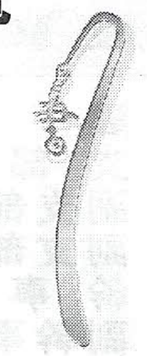
しかし、清水港に蒸気船を常備させるように働きかけ、海運会社を作らせたために、横浜との往復に非常に役立ったのである。

明治七年には富士の裾野を開墾する事業に取り組んだ。国のためにもなると囚人を雇ったが、逃亡するものもあり、やせた土地は収穫も上がらず、十年ほどで中止になったが七十六町歩を開墾し次郎長町ともいわれている。その間に、博徒と疑われて次郎長は静岡警察に投獄されてしまったことがある。

その疑いを解くために、次郎長の居候であった天田五郎が、若き日の次郎長の思い出話を書きとめ「東海遊侠伝」という読み物にして出版した。

後年それを夕ネ本にして講談や広沢虎造の浪花節ができ「東海一の大親分」の物語が余に有名になったのである。

国立国会図書館
関東支部「会報」閲覧 初体験記



納本登録番号
Z24 － 1279

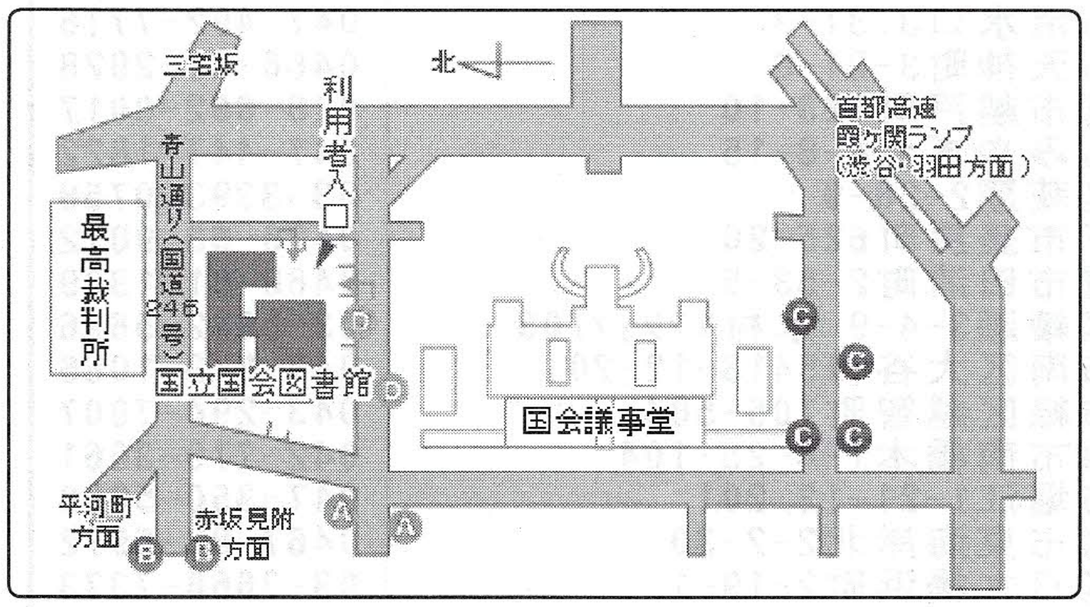
鈴木　啓嗣
（Ｓ 34 年卒）

当支部の会報は歴代編集担当の方々のご努力で、国立国会図書館に納本されている。

創刊号が発行された時、海野幹事長（当時）から「国会図書館に納本」が提案された。そして富田修一氏（初代編集）と幹事長のご尽力があって、実現に至ったというのが隠れた経緯です。国会図書館ってどんな所？　その原本を閲覧してみたい。と思い起ち、永田町駅から7～8分の同館に出向いた。

次の手続きで閲覧した。

初めてご来館の方は新館へ
（ＩＤカード発行依頼）↓
当日利用ＩＤカード発行
（ＩＤコード 89238 を端末機にセット）
↓
納本登録番号　Ｚ 24 － 1279
↓（検索）
雑誌（の分類）カウンターの前の大きなモニターにＩＤカード番号が表示され、**現物が渡される**



本を書棚から直接選んで手に出来ない閉架式図書館（と案内にある）だが、建物の大きさ・ゆったりしたレイアウトは、さすが《国会・》という名にふさわしい雰囲気を感じさせた。

「国会図書館の原本」から主な内容と印象を披露すると、富士山をバックにした静岡市街の写真が表紙の創刊号は《納本登録番号》と《受付日　4・6・17》と記されていた。第一回総会が前年7月6日スエヒロで１６０人を集めて開かれたというメインの記事。

第二号には一〇〇年部会の呼びかけや、新浦寿夫・久保田利伸氏の寄稿がある。「歩く会」が発足したこと、「日本全国書誌」に会報の登録番号が掲載されたとある。今日との対比が面白くて、暫し諸兄の顔写真に見入っていた。

平成5年度の総会に黒はんぺん、6年度には桜エビが初めて登場し、出席者から歓声が上がったと、第三・四号で伝えている。

第九号を手にして気づいた。手書きだった登録番号とゴム印だった受付印が機械印字の一体化シールに変わっている！合理化・効率化？されたのだなと独り納得した。海野支部長・鈴木幹事長の選出、応援部会の発足・好天に恵まれた屋形船等、盛り沢山。写真やイラストがあちこちを飾り、読み易くなっている。ページを閉じ返却窓口に出したらきっちり冊数など確認していた。でもどの職員も感じが良い。

本館6階の食堂で定食を食べた。やはり巷より2～300円安い。メニューも多い。「又いらっしゃってください。一般の方もお食事だけのご利用が出来ますよ」とレジのベテラン女性が答えてくれた。

充実の時を過し館をあとにした。外は柔らかな春の雨になっていた。

皆さんも、会報の閲覧にいちど国会図書館を訪ねてみてはいかが・・・

笑いは百薬の長
ひとりのチカラ みんなのチカラ

小林　吉照（Ｓ 41 年卒）

定年後の第二の人生をどう過すかを模索している方がいると思います。皆さんは趣味をお持ちでしょうか。登山・釣り・将棋・囲碁・ゴルフ・野球・テニス・サッカー・読書・カメラ・音楽鑑賞・映画鑑賞・家庭菜園・・・。数え上げたらキリがありません。

今年の2月9日付け讀賣新聞　くらし・家庭欄のコラム「ひとりのチカラ・自分を磨く⑪」に『定年後、落語で人脈作り』のタイトルで、わが関東支部広報部会の平井幸雄（Ｓ36年卒）さんの定年後の生き方が掲載されました。平井さんの趣味は落語でした。聞くだけでなく演じるのです。内容に大変興味深いものがありましたので紹介します。

昭和36年に静商を卒業後、サラリーマン生活。最後の約十五年間は研修所で社員教育の仕事を勤め、会社中心の生活を続け無事定年になりました。

若いころから落語を聴くこと、自作のジョークや言葉遊びが好きだったこともあり、退職間際から、一人新聞『ヒライ信』を発行し、知人・友人に送りネットワークづくりをはじめました。退職後は様々な知識や経験を持つ高齢者を、講師として派遣するＮＰＯ法人『シニア大楽』の事務局にかかわる一方、自らも講師登録をしました。中でも落語をネタにした講演が好評です。芸名は、建久亭馬家と、三遊亭圓塾（静岡出身のプロの三遊亭圓王師匠に命名してもらった）です。

『一人で楽しむだけでは充電されるばかりでもったいない。それを放電し、人に伝えようと努力すれば新しい人間関係が生まれます』

笑いをテーマに人間関係を広げている平井さん。

まさに「笑いは百薬の長」です。「笑う門には福が来る」こんな馬鹿馬鹿しい（失礼？）生き方も・・・・

(23) くらし 12版　2005年(平成17年) 2月9日 (水曜日)　読売新聞

ひとりのチカラ　自分を磨く ⑪

定年後、落語で人脈作り
趣味で蓄えた知識、講演で披露

くらし■家庭

「平井幸雄と申します。高尾山のある八王子から来たので『飛来高尾』、平板な顔なので『平板顔』とも書きます」。昨年末、東京・北区の女将さんの勉強会に呼ばれた講師役の平井幸雄さん(62)が、しゃれっ気たっぷりに自己紹介をすると、会場は和やかな笑いに包まれた。

この日のお題は「古典落語に学ぶ商売の知恵」。落語をヒントに客を喜ばせて売る「笑売」の秘けつを約一時間講演した後、得意の「時蕎麦」も披露した。

講演依頼は月に二件ほど。落語家としても何度か高座に上がる。月に約十万円の収入になる。「落語のCDや本を買う費用をお小遣い」と平井さんは笑う。

☆☆☆

高校卒業後、日立製作所に就職。会社員生活の後半二十年は関連会社の研修所で社員教育などを手がけ、所長も務めた。忙しい時は一年の半分を研修所に泊まり込むなど、会社中心の生活。五十九歳で早期定年退職を決めた時、「地域に足がかりはない。退職後、毎日をどう暮らしたらよいだろう」と不安が募った。

若いころから落語を聞いたり、ジョークを考えたりすることが好きだった。五十五歳の時、自作のジョークや言葉遊びなどをA4用紙一枚につづり「ヒライ信」として発行を始めた。近況報告を兼ね、毎月、知人らに送った。

退職から一年ほどたったころ、「ヒライ信」読者の知人から「新事業の手伝いをしてほしい」と誘われた。様々な知識や技術を持つ高齢者を募集して登録し、講師として派遣する民間団体「シニア大楽」だった。事務局を手伝う傍ら、自らも登録し、落語や笑いに関する講演を担当した。

☆☆☆

趣味とは違い、人に聞いてもらうのだからと、移動中は必ず笑いやユーモアに関する本を読み、実用的な笑いのヒントを仕入れる。落語では、「建久亭馬家」などの名前を名乗る。これまでに九作品覚えたが、暗記のためにノートに書き写したり、CDをくり返し聞いたり。表情やしぐさ、間の取り方などはプロに指導を仰ぎ、技を磨いている。

「組織では縦のつながりが重視されがちだが、退職後は横のつながりがモノをいう。演劇でも映画でも、ひとりで楽しむだけでは知識が充電されるばかりでもったいない。それを放電し、人に伝えようと努力すれば新しい人間関係は生まれます」

第2の人生に準備を

高齢者の自立支援を行う「シニアルネサンス財団」（東京）の試算によると、六十歳定年の場合、平均余命を約二十二年として、自由に使える時間は約十一万時間（睡眠時間などを除く）。これは大学卒業後、土日や年末年始などを除き定年までの三十八年間、一日十二時間仕事や通勤に費やした時間とほぼ同じだという。

同財団事務局長の河合和さんは「退職後は趣味に興じて悠々と暮らす、と言う人は多いが、それだけでは持て余してしまうほど時間は長い。楽しみながらできる仕事を見つけ、お小遣いを稼ぎながら、だれかの役に立つ。そんな第二の人生を、早い段階から準備したい」と話している。

（宮智泉、室靖治、板東玲子が担当しました＝第一部おわり）

シニア大楽の舞台に立つ平井さん

このシリーズへのご意見やご感想、「こうして自分を磨いた」という体験談などをお寄せ下さい。〒100-8055読売新聞東京本社生活情報部「ひとりのチカラ」係。ファクス(03・3217・9919)、電子メール(kurashi@yomiuri.com)でも。

静商同窓会関東支部役員名簿（平成17年５月14日現在）

役職名	卒年	氏名	郵便番号	現住所	電話番号
顧問	S25.3	湯本　克巳	112-0006	文京区小日向1-19-1	03-3947-8018
支部長	30.3	海野　昭	173-0003	板橋区加賀2-3-1-522	03-3963-5905
副支部長	32.3	宗野　治義	227-0063	横浜市青葉区榎が丘50-8	045-983-6339
副支部長	37.3	西島　一二三	251-0861	藤沢市大庭5529-8,808	0466-88-4416
幹事長	36.3	鈴木　晧介	247-0002	横浜市栄区小山台2-34-30	045-893-0912
副幹事長	48.3	青木　洋一	140-0001	品川区東品川3-1-21ビッグヴァンボーディアム404	03-3450-8156
会計	34.3	鈴木　啓嗣	245-0016	横浜市泉区和泉町7406-8	045-303-5391
会計監査	29.3	富田　修一	270-1435	白井市清水口3-37-3	047-492-7716
会計監査	32.3	織部　忠義	252-0814	藤沢市天神町3-21-8	0466-81-2928
常任幹事	29.3	山田　雅子	321-0951	宇都宮市越戸町123-10	028-662-0017
常任幹事	31.3	長谷川　勉	274-0804	船橋市みやぎ台4-8-15	047-447-1822
常任幹事	33.3	曽我　和善	167-0051	杉並区荻窪2-28-9	03-3393-0758
常任幹事	36.3	平井　幸雄	193-0824	八王子市長房町625-26	0426-63-9812
常任幹事	37.3	増田　数茂	237-0075	横須賀市田浦町2-53-5	0468-61-1339
常任幹事	38.3	杉本　博行	120-0005	足立区綾瀬3-4-9 水村マンション705	03-5682-5696
常任幹事	42.3	山口　ひろみ	336-0042	さいたま市南区大谷口5413-12-201	048-873-1086
常任幹事	43.3	長橋　修	267-0055	千葉市緑区越智町705-504	043-294-7907
常任幹事	43.3	冨田　正巳	229-1133	相模原市南橋本1-4-25-104	042-779-3061
常任幹事	H 6.3	若尾　剛志	279-0041	浦安市堀江1-21-12,201	047-350-5659
幹事	S16.3	田中　幸太郎	253-0053	茅ヶ崎市東海岸北2-2-30	0467-82-5972
幹事	20.3	久保　弥六	103-0007	中央区日本橋浜町2-19-1	03-3666-7373
幹事	21.3	嶋田　安雄	274-0065	船橋市高根台4-13-9	047-466-7394
幹事	23.3	関　勉	276-0025	八千代市下市場2-9-7	047-484-2361
幹事	24.3	後藤　一雄	274-0067	船橋市大穴南1-11-3	047-464-2458
幹事	24.3	森下　壹雄	277-0061	柏市東中新宿3-19-5	04-7172-3864
幹事	24.3	内藤　義人	182-0006	調布市西つつじケ丘4-23-41-105	0424-38-7803
幹事	26.3	天野　覚	185-0002	国分寺市東戸倉1-18-2	042-323-3248
幹事	27.3	池田　博之	270-1143	我孫子市天王台1-24-10-401	04-7183-0946
幹事	27.3	藤浪　稔央	212-0005	川崎市幸区戸手4-9-2-205	090-3514-4005
幹事	28.3	知光　敬矩	168-0063	杉並区和泉2-7-14	03-6762-7720
幹事	28.3	上山　富義	251-0861	藤沢市大庭5056-6,1-1-1072	0466-86-2941
幹事	29.3	榊原　貞夫	203-0034	東久留米市弥生1-3-23	0424-65-1891
幹事	30.3	望月　秀雄	182-0022	調布市国領町6-24-9	0424-87-1497
幹事	30.3	佐藤　富士夫	276-0044	八千代市萱田町1100-13	047-485-1143
幹事	31.3	一色　正一	215-0012	川崎市麻生区東百合丘1-24-2	044-955-7363
幹事	31.3	渡辺　忠章	242-0011	大和市深見3211-15	046-263-3692
幹事	32.3	木佐森　達夫	167-0051	杉並区荻窪1-44-19	03-3391-0728
幹事	33.3	薩捶　英司	140-0011	品川区東大井2-23-4-208	03-3767-1154
幹事	33.3	原　芳夫	274-0073	船橋市田喜野井4-29-12-303	047-469-5008
幹事	34.3	小長井　武夫	169-0051	新宿区西早稲田1-22-2-306	03-5286-8362
幹事	35.3	秋山　卓男	277-0005	柏市柏948-33	04-7164-5306
幹事	35.3	勝亦　常夫	330-0852	さいたま市大宮区大成町3-627-4	048-665-2641
幹事	36.3	前山　忠弘	336-0923	さいたま市緑区大間木1545-4-203	048-874-1611
幹事	37.3	長谷川　英樹	227-0061	横浜市青葉区桜台1-36	045-973-0841
幹事	38.3	梶山　恭一	188-0004	西東京市西原町4-5-37-6-707	0424-67-2913
幹事	39.3	清水　豊	276-0031	八千代市八千代台北16-10-12	047-405-0916
幹事	39.3	川崎　衛	182-0022	調布市国領町3-1-38-512	0424-81-1340
幹事	40.3	関塚　仍子	339-0004	岩槻市徳力454-8	048-794-8900
幹事	40.3	中畑　稔	264-0022	千葉市若葉区桜木町264-9	043-233-6450
幹事	41.3	小林　吉照	234-0054	横浜市港南区港南台1-16-5-101	045-831-7478
幹事	41.3	松本　豊	270-1143	我孫子市天王台4-11-23	0471-83-4893
幹事	42.3	高塚　年明	224-0029	横浜市都筑区南山田1-4-3-603	045-593-0193
幹事	42.3	小林　幸義	270-0007	松戸市中金杉1-187-5	047-347-4466
幹事	43.3	鈴木　幸夫	221-0802	横浜市神奈川区六角橋3-15-7	045-491-7322
幹事	44.3	星野　修司	166-0002	杉並区高円寺北3-37-14	03-3337-3063
幹事	45.3	安藤　俊	344-0012	春日部市六軒町322-5	048-738-3602
幹事	45.3	大石　倫義	244-0802	横浜市戸塚区平戸5-32-30-203	045-824-1334
幹事	46.3	稲葉　和男	168-0062	杉並区和泉4-49-5-101	03-5378-3694
幹事	47.3	久村　澄江	182-0012	調布市深大寺東町8-24-1-3-104	0424-87-9089
幹事	48.3	渡部　広志	285-0863	佐倉市臼井1800-59	043-489-1355
幹事	49.3	高山　房之	272-0106	市川市伊勢宿11-24-402 アルファグランデ行徳弐番街	047-358-1318
幹事	50.3	杉本　幸雄	174-0063	板橋区前野町3-20-4-305	03-5392-9768
幹事	51.3	萩原　克則	358-0021	入間市高倉1-9-31-B103	0429-65-5518
幹事	51.3	井上　真理子	215-0021	川崎市麻生区上麻生4-49-2	044-954-5455
幹事	54.3	矢部　正志	334-0004	鳩ケ谷市辻119-17	048-282-6957
幹事	55.3	岩出　小夜子	166-0016	杉並区成田西3-10-26	03-5377-4248
幹事	56.3	小菅　秀子	272-0834	市川市国分4-14-17	047-371-1706
幹事	H 6.3	浦田　輝	111-0056	台東区小島町2-8-12-301	03-3862-0409
幹事	H12.3	村松　太一	183-0042	府中市武蔵台1-27-1 シャローム204	090-5034-2050

会費・寄付等納入者御芳名（敬称略：順不同：単位千円）

会員の皆様の暖かいご支援、ご協力に対しまして厚く御礼申し上げます。平成 17 年 3 月 31 日までにご納入頂いた方々の御芳名を下記の通りご報告申し上げます。名簿作成に当たっては、誤字、記載漏れ等のないよう注意をいたしておりますが万一不手際がございました場合は深くお詫び申し上げます。　（注）氏名の右＊印は総会出席者を示します。

卒年・氏名・金額		
10年	中村　克己＊	5
11年	山内　昇	10
12年	浦田　金吾	2
14年	小林　鉦次郎	10
	中村　雅夫	5
	天野　八郎	3
	大塚　城夫	2
16年	田中　幸太郎＊	12
	花島　正義＊	2
	山村　智策	4
	山村　富春	2
	高橋　清	2
	石川　要一	2
	山崎　保	2
17年	石垣　貞一	2
	石月　啓司	2
	前田　謙治	2
20年	宇佐美　益司＊	4
	久保　弥六＊	2
21年	嶋田　安雄	2
	鈴木　恒太	2
23年	関　勉＊	6
24年	森下　壹雄＊	7
	油井　徳二＊	4
	石田　徳次郎＊	2
	後藤　一雄＊	2
	深尾　孝＊	2
	内藤　義人＊	2
	里見　勝弘	5
	山本　昭吾	2
	増田　和也	2
	柏村　好雄	2
	森　芳宣	2
	山本　直樹	2
	前田　俊夫	2
25年	湯本　克巳＊	42
26年	天野　覚＊	4
	庄司　靖夫	5
	村越　英夫	5
	滝　利雄	2
	根本　昭	2
	和田　匡史	2
	福岡　正浩	2
27年	藤浪　稔央＊	32
	望月　健三郎＊	4
	浅井　武司＊	3
	池田　博之＊	2
	古川　兵伍＊	2
	安田　春雄＊	2
	八木　陽司＊	2
	故）成川　貞夫	20
	梅田　定男	2
	斉藤　二郎	2
	関根　進一郎	2
	志田　実	2
	山村　庸太郎	2
	寺田　勝美	2
	近藤　柳太郎	2
	磯部　信雄	2
	斎藤　健	2
	曽根　満夫	2
	伊東　越朗	2
	上田　伸子	2
	朝比奈　一郎	2
	浅井　英一	2
28年	大石　真澄	2

卒年・氏名・金額		
29年	富田　修一＊	4
	榊原　貞夫＊	3
	山本　欽次＊	2
	永井　賢雄＊	2
	内海　知之＊	2
	小松　英夫＊	2
	前田　熊一郎＊	2
	小林　貞夫＊	2
	山岸　光男＊	2
	興津　高里＊	2
	山田　雅子＊	2
	石川　冲＊	2
	浦山　實	2
	上野山　三平	2
	阿井　淑晴	2
	大畑　辰雄	2
	鈴木　正子	2
	藪崎　義男	2
	田中　恵津子	2
	三森　光雄	2
30年	海野　昭＊	32
	佐藤　富士夫＊	4
	古井　陸志＊	4
	堀内　鋒行＊	4
	大滝　勇＊	2
	望月　秀雄＊	2
	望月　昌房＊	2
	山本　京一＊	2
	服部　勤＊	2
	萩原　吾郎＊	2
	成岡　武	5
	亀山　勝雄	4
	青木　二郎	2
	高木　慶二	2
	服部　善男	2
	堀田　英夫	2
	石貝　晃司	2
31年	長谷川　勉＊	7
	渡辺　忠章＊	5
	山田　正彦＊	5
	義村　貴一＊	2
	木村　明雄＊	2
	大原　章利＊	2
	勝見　勝江	5
	故）小林　悦子	2
	村上　勝則	2
	山内　五郎	2
	井上　孝信	2
	紅林　勲	2
32年	宗野　治義＊	12
	木佐森　達夫＊	5
	山島　利一＊	4
	岩下　寛治＊	2
	黒瀬　明＊	2
	堤　正義＊	2
	松本　一宇＊	2
	阿井　勝利	12
	織部　忠義	10
	松井　邦浩	2
	松木　交市	2
	石神　佳子	2
	植野　大次郎	2
	吾郷　裕子	2
	島田　卓司	2
33年	大橋　善悟＊	2
	薩捶　英司＊	2

卒年・氏名・金額		
33年	原　芳夫＊	2
	曽我　和善	15
	上條　佐恵子	5
	秋山　賢司	4
	加藤　忠良	2
	野呂瀬　誠子	2
	竹内　清	2
	本間　好武	2
	池ケ谷　栄一	2
	佐野　勝一	2
	高橋　勲	2
	高橋　甫	2
	古牧　義司	2
34年	杉山　光男＊	4
	鈴木　啓嗣＊	4
	常盤　秀樹＊	4
	水野　恵司＊	4
	岡村　克己＊	4
	桑原　達夫＊	2
	戸井　政広＊	2
	谷本　寅雄＊	2
	小長井　武夫＊	2
	平井　シズヨ＊	2
	松井　伸太郎＊	2
	高木　美子＊	2
	藪崎　公一＊	2
	秋山　敏夫	4
	鷲野　隆一	3
	青木　利浩	2
	大島　幸枝	2
	久野　千加士	2
	柴　義弘	2
	高城　千里	2
	竹内　祥子	2
	田村　富男	2
	萩原　卓	2
	三尾　規子	2
	和田　政治	2
35年	秋山　卓男＊	7
	坊野　清之＊	7
	秋山　八重子＊	4
	植田　佐代子＊	4
	山田　昌之＊	4
	宗野　賢次＊	4
	勝亦　常夫＊	2
	小林　一男＊	2
	中川　明巳＊	2
	杉山　睦朗＊	2
	金子　きのえ	2
	鈴木　祐輔	2
	市川　幸子	2
	鈴木　春恵	2
	芹澤　輝俊	2
	松下　勝明	2
36年	鈴木　晧介＊	7
	前田　雄幸＊	5
	松平　俊男＊	5
	横島　啓枝＊	5
	杉山　篤＊	5
	池ケ谷　捷之＊	4
	増田　勝江＊	4
	田中　貞雄＊	4
	土岐　守行＊	4
	松下　孝＊	4
	前山　忠弘＊	4
	小長井　建昭＊	4

卒年・氏名・金額		
36年	大村　三千夫＊	4
	嶋崎　佐夜子＊	4
	筒井　熙子＊	4
	渡辺　秀世＊	4
	大橋　敬正＊	4
	鷲野　喜八郎＊	2
	海野　治＊	2
	平井　幸雄＊	2
	富田　芙士男＊	2
	増井　博志＊	2
	湯本　鐵夫＊	2
	高木　英雄＊	2
	大石　康年＊	2
	堤　訓子＊	2
	小泉　恵一＊	2
	石井　清史	2
37年	松田　弘＊	12
	西島　一二三＊	4
	松田　厚子＊	4
	安川　榮子＊	4
	中田　有智子＊	4
	長谷川　英樹＊	4
	増田　数茂＊	4
	安藤　徹＊	2
	佐藤　信三＊	2
	鈴木　守	5
	見崎　洋一郎	5
	青島　幸一	2
	寺澤　弘也	2
	山崎　邦夫	2
38年	吉澤　英夫＊	12
	梶山　恭一＊	7
	小泉　慧＊	7
	杉本　博行＊	2
	鈴木　一晴＊	2
	吉田　茂夫＊	2
	小澤　昌明	10
	浅場　利朗	2
	五十嵐　昭夫	2
	互井　まりこ	2
	八木　勝司	2
39年	川崎　衛＊	4
	青柳　秀雄＊	4
	遠藤　利雄＊	3
	杉山　俊夫＊	2
	寺田　秀夫＊	2
	清水　豊	10
	河田　正勝	7
	山内　功	2
	羽山　千江子	2
	小林　直	2
	曽根田　正美	2
40年	関塚　仍子＊	12
	田邊　勉＊	12
	森谷　綾子＊	2
	中畑　稔＊	2
	原　初典＊	2
	鷲巣　雅彦＊	2
	小早川　宏＊	2
	神山　孝＊	2
	萩原　久子	2
	中野　睦夫	2
	中野　幸子	2
41年	松本　豊＊	4
	小林　吉照＊	2
	矢込　俊吾	5

卒年・氏名・金額		
41年	高木　光子	2
	坊野　秀美	2
	坊野　やえ子	2
	酒井　章平	2
	吉田　武男	2
42年	高塚　年明＊	12
	山口　ひろみ＊	4
	小林　幸義＊	2
	高山　康明＊	2
	吉野　秀男＊	2
	寺尾　八郎	2
	村上　恵作	2
43年	冨田　正己＊	4
	滝浪　利信＊	4
	村松　典子＊	4
	金田　京子＊	3
	鈴木　幸夫＊	2
	長橋　修＊	2
	秋山　八重子＊	2
	岩下　喜美枝	2
	鎌田　和枝	2
	原木　妙子	2
	石田　愛子	2
	菅原　栄司	2
	鷲坂　悦朗	2
44年	野谷　さち子	2
45年	大石　倫義＊	2
	安藤　俊＊	2
	山梨　隆史	2
	松島　英雄	2
	山口　千江	2
46年	稲葉　和男＊	2
	大野　康彦＊	2
	三石　輝子	2
	岩崎　庸三	2
	斎藤　礼子	2
47年	青木　輝美＊	4
48年	青島　正一＊	4
	岩城　一恵＊	4
	相川　雅美＊	2
	青木　洋一＊	2
	杉本　芳子＊	2
	渡部　広志＊	2
	冨井　商之	2
	牛村　優子	2
	斎藤　まり子	2
	森　隆幸	2
	増田　潤	2
49年	高山　房之	3
50年	平野　一恵	2
51年	井上　真理子	2
	松下　達也	2
53年	松岡　美詠子	2
54年	矢部　正志	2
H6年	若尾　剛志＊	2
H12	村松　太一＊	2
H13	酒井　陽一郎	2

☆会費・寄附金払込者

総会出席者	164	名
郵便振込者	157	名
合　計	321	名

☆会費・寄附金合計額

1,098,000 円

自然景観に恵まれた湯の里

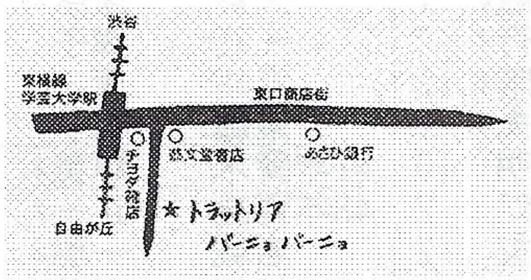
湯宿 嵯峨沢館

〒410-3209
静岡県伊豆市天城湯ヶ島町嵯峨沢温泉
TEL ０５５８－８５－０１１５
植田　麻巳（Ｓ 38 年卒）

Bagno Bagno
Da Maci

イタリア家庭料理（バーニョ・バーニョ・ダ・マチ）

☆ 東急東横線学芸大学東口駅前（目黒区鷹番３－３－１９）
☆ 電話：０３－３７１０－３９８４
☆ 年中無休
☆ 営業時間：LUNCH　11:40 ～ 14:30
DINNER　17:30 ～ 23:00



テレビ東京「出没アド街ック天国」の学芸大学編で、第六位として紹介された、時々有名人も来店される、こじんまりしたイタリアンレストランです。
（Ｓ 32 年卒 宗野の娘の店です）

DINO Pasta & Bar
パスタ ＆ バール ディノ
住所が変わり、新しい店舗になりました
杉本　博行（Ｓ 38 年卒）
足立区千住２－１　コスモ北千住１０２
ＴＥＬ＆ＦＡＸ ０３－３８７０－８９２２
千住駅下車　歩７分　日光街道沿い　明治安田生命ビル隣

― コンピュータ・ソフトウェア開発 ―
APL JAPAN
株式会社 エイプルジャパン
代表取締役 阿　井　勝　利（S32 年卒）
〒105－0014
東京都港区芝２－31－19（B・Ｚビル）
TEL 03（5443）1235　FAX 03（5443）1236
http://www.apl-japan.com

営 業 所：東京事業所・福岡営業所・新潟営業所・大阪営業所
関連会社：鶴翔（杭州）軟件有限公司・株式会社エイブル
事業概要：コンピュータソフト各種開発
ERP・CRM のコンサルテーション、カスタマイズ、サポート、IT ソリューション（インターネット、EC 等）のコンサルテーション、設計、開発、保守、運用
フロントオフィス・バックオフィスのコンサルテーション、設計、開発、保守
基幹システムのコンサルテーション、設計、開発、保守

きっと お役に立てると 思います
印刷全般
三共綜合印刷株式会社
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋 3-11-22
TEL 03-3230-4555
FAX 03-3230-4888
藤 浪 稔 央（S27 年卒）

特定非営利活動法人 シニア大樂（だいがく） Senior-daigaku
NPO法人　シニア大樂（だいがく）
講師紹介センター　理事　平井幸雄（Ｓ 36 年卒）
各種講習会・研修会・イベントに講師を派遣します
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://www.senior-daigaku.com
Ｅメール senior-daigaku @ joy.ocn.ne.jp

那須小川ゴルフクラブ
第２８回定例コンペ
2005.9月末の予定
ゴルフ同好会
入会・参加申込は
090-9848 － 8381
小長井武夫（Ｓ 34 年卒）

ゴルフ同好会
現在会員５５名（うち女性２名）会員募集中

カラオケ同好会
毎年　暮にボウリング大会、春に花見を企画しています
詳しくはホームページ
http://www5e.biglobe.ne.jp/~WeLoveSC
青木洋一（Ｓ 48 年卒）

第3回グルメの会
蛍
ほたる狩りと地鶏炭火焼
平成十七年六月十日（金）
京王線高尾山口駅午後６時
申込は
山口ひろみ（Ｓ 42 年卒）
090-4132-6547
杉本　博行（Ｓ 38 年卒）
03-5682-5696